患者さんのコミュニティ広場

ゆい（結）

第53号
発行月：令和元年11月
発行：新潟県立中央病院
患者サービス向上委員会広報班
当院ホームページもご覧ください
http://www.cent-hosp.pref.niigata.jp

もくじ

イベントレポート・・・・・・・・・・・・・1
放射線科のご紹介・・・・・・・2
めざせ！未来の医師・看護師！！・・4
DMATの紹介・・・・・・・・・・・5
お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

『DAZN presents 病院ビューイング』を開催しました！

10月19日(土)に病院2階の講堂にて、サッカーJ2リーグ第37節、アビスパ福岡FC vs アルビレックス新潟の試合の病院ビューイングを行いました。病院ビューイングとは、いわゆるパブリックビューイングを病院で開催し、患者さんと一緒に私たち病院職員や看護学生さん、市民ボランティアの方やアルビレックスのサポーターの方たちとサッカーを観て楽しむイベントです。アルビレックス新潟様とインターネット動画配信会社のDAZN様の協力により毎年開催しています。

この病院ビューイングは、ただサッカーを観るのではなく、患者さんとスタッフが同じテーブルを囲み、お話ししながら見るスタイルを取っています。観戦しながら交流していただくことにより、楽しい時間を過ごしてもらうとともに、入院による不安や、一人で病室に入ることによる孤独感などを少しでも解消したいと考えています。

この日の試合は1-2で新潟が惜しくも敗れてしまいましたが、得点が入った時やシュートが決まりそうだった時の会場の盛り上がり様は病院内とは思えない程でした。患者さんは患者であることを忘れ観戦、応援を楽しんでおられました。

この活動は5年前に新潟大学付属病院と当院で開催してから徐々に広がり、これまで県内7病院で開催するに至っています。これからも少しでも患者さんに喜んでいただけるよう、一緒に楽しめるようなイベントを企画していきたいと思っています。

放射線科のご紹介

当院の放射線科は、医師6名、診療放射線技師26名、事務3名で構成されており、看護師、検査技師等の医療スタッフと協同で様々な検査や治療を行っています。今回はそんな放射線科についてご紹介します！

放射線科技師長

上石　謙一

様々な検査

病気を見つけ診断するため、放射線科では様々な検査を行っています。

・胸部や腹部、手足、背骨等のＸ線写真を撮影する一般撮影

・バリウムを飲んで胃や腸を検査する透視検査

・乳房のＸ線写真を撮影するマンモグラフィ

・Ｘ線を体の周りから照射して「輪切り」の写真を撮影するＣＴ検査

・磁力と電波を使って体の断面像を得るＭＲＩ検査

・アイソトープと呼ばれる放射線を出す薬を注射し、そこから出る放射線を画像にするアイソトープ検査やＰＥＴ検査

・カテーテルと呼ばれる細いチューブを血管に入れてその先から造影剤を出して、頭部、腹部、四肢、心臓の血管を撮影する血管造影検査　　など

これらの検査で病気と診断されると治療となりますが、放射線の力でがん細胞をなくしたり、小さくしたりする放射線治療、血管造影検査から続いてそのまま血管を広げたり、出血部分をふさいだり、薬を注入する血管内治療、その他、衝撃波で尿管結石等を壊す結石破砕治療などが行われています。

MRI装置が1台増設されました！！

当院では2019年4月に2台目となるMRI装置が増設されました。これにより、1台体制のときのような予約待ちもかなり緩和されつつあります。また、新装置は磁場の強さT（テスラ）がもとからある装置の2倍の3T装置となっており、さらなる高画質の画像が提供できます。特に、脳の血管などを造影剤無しで検査できるMRA検査は今まで見えなかった細い血管まで高画質で描出することができます。他の検査部位でも検査時間の短縮や高画質化に期待しているところです。

しかしながら、良い事ばかりではなく３T装置特有のデメリットもあり、今までの1.5T装置（2015年更新でこちらも良い画質で検査できます！！）と合わせてみなさまの診療に役立てていきたいと思っております。

マンモグラフィ撮影装置が新しくなりました！

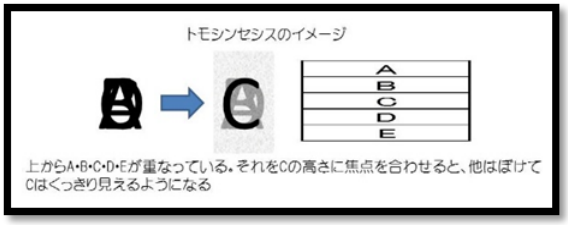
2019年10月より、乳房撮影装置が新しくなりました。この装置は, FPD(フラットパネル)が搭載されており、被爆量が少なくてもきれいな画像が撮影できます。また、撮影後すぐに画像を確認することができますので検査がよりスムーズに行えるようになりました。また、乳房撮影の新しい技術である『トモシンセシス』が可能となりました。

新しくなったマンモグラフィ撮影装置

トモシンセシスとは？

従来のマンモグラフィ撮影に加え、角度を変えて複数の方向から撮影したデータを3次元的に再構成して断層像を作成する技術です。断層像は1ｍｍおきに作成され、見たい構造に焦点を合わせた画像を提供することが可能で、従来の撮影では乳腺構造の重なりにより乳腺内に隠れて見えなかった病変もトモシンセシスにより見つけ出しやすくなります。当院では1回の圧迫で従来のマンモグラフィとトモシンセシスの撮影が同時に行えるので、圧迫する回数は今までと変わりません。なお、トモシンセシスを使用するのは、精密検査が必要な患者さんが対象となります。

トモシンセシスのときの機械の動き



そもそもマンモグラフィって何？？

乳房専用のX線撮影のことで、乳がんの初期症状である微細な石灰化や触診ではわかりにくい小さなしこりを画像として捉えることができ、乳がんの早期発見に欠かすことのできない有効な検査の1つとなっています。マンモグラフィは透明な圧迫板で乳房をはさみ、薄く伸ばして撮影します。これはより少ない放射線量でがんと正常部分の区別をつきやすくするためです。検査のときは多少の痛みがありますが、痛みが我慢できなければ遠慮せず撮影技師に伝えて下さい。当院ではマンモグラフィ撮影については女性技師が担当しています。

☆乳がんは増加の一途をたどり、今や日本人女性の11人に1人が乳がんになる時代です！乳がんは他の癌と同じく、早期発見がとても大切な病気です。早期発見により、治癒の可能性が高まり、治療の選択肢が広がることに加え、治療後の生活の質がよりよいものとなります。より多くの方に乳がん検診を受けていただき、私たちの撮影したマンモグラフィが乳がんの早期発見につながればと思います 。

レントゲン博士が1895年にＸ線を発見してからまだ120年余りしか経っていませんが、放射線を利用した医学は日進月歩で発展しています。検査・治療技術や装置の発達も目覚ましいものがあり、スタッフも日々技術の研鑽に励んでおります。また、夜間・休日も交代で当直・日直体制をとりながら対応しております。皆様に安心・安全・安楽に検査・治療を受けていただけるよう努力してまいりますのでよろしくお願いします。

目指せ！未来の医師・看護師！！

高校生医師体験

8月5日と7日に高田高校、直江津中等教育学校の生徒さんを対象に医師体験を実施しました。気管内挿管、ＡＥＤの使い方、採血練習、手洗いをしての手術場見学など、高校生に体験してもらえる様々なことを病院各職種の皆さんの協力の下に行いました。高校生の医学部入学への勉強のモチベーションになり、ひいては彼らが上越に医師として戻ってきて上越の医療を支えてくれることを願っています。

中学生職場体験学習（上越ゆめチャレンジ）

医療職に興味を持つ、上越地域の3校12名の生徒さんを受け入れました。当院の看護部、薬剤部、検査科、放射線、リハビリ、栄養課など病院内の様々な仕事を体験しました。

＜生徒さんからの感想＞

◇病院は看護師と医師だけで成り立っているわけではなく、病院を経営する人、患者さんを支える人、医師の診断の助けとなる検査をする人など医療チームで成り立っていることが分かりました。将来の夢に向かって、中央病院で学んだことを活かして頑張りたいです。

◇心に残った体験は薬剤部で検査液を作ったことです。チームワークの大切さが分かりました。

◇患者さんの見えないところで、たくさんの方が関わっていること、働いていることが分かりました。誰にでも笑顔を絶やさず、丁寧に接している中央病院の皆さんを見て、素晴らしいと思いました。

サマーインターンシップ

看護学生さんを対象に県立病院が担う役割を知る機会として、年に2回インターンシップを開催しています。病院見学や看護体験を通して、職場の雰囲気を実際に感じてもらいました。

＜看護学生さんからの感想＞

◇ とても優しく丁寧にご指導いただき良い体験になりました。患者さんと関わる姿から多くのことを学ぶことができました。

◇ 今回の経験を活かして、更に学習や実習に取り組んでいきます。

◇ お昼の看護師の方との交流の時間では、就職先を選んだ理由、時期、休暇の取り方などについて伺うことができ、参考になりました。

今後も看護学生さんの就職先選択の一助となるよう、春・夏と開催していきます。

DMATの紹介

県立中央病院は上越地域の基幹病院であると同時に『災害拠点病院』の指定を受け、地震・津波・台風・噴火等の災害発生時には災害医療を提供する役割を担っています。その機能の一部として『DMAT』があります。

DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義され、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとってDMATと呼ばれています。

DMATは医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職員および事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故現場などで、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた医療チームです。

災害が発生した際には、災害現場での医療行為、被災地の病院支援、危険区域外への患者搬送など業務は多岐にわたります。

被災地では自己完結が基本となるため、現地での移動のほか隊員らの衣食住も準備したうえで出動します！

現在、中央病院には医師7名、看護師9名、事務調整員4名のDMAT隊員がいます。普段はそれぞれの業務に従事し、災害等が発生し、国からの派遣要請を受けた時には2チーム(1チーム5名)が昼夜問わず速やかに出動できる体制を整えています。また災害時には全国のDMAT、消防、自衛隊、警察、自治体などとの情報共有、連携がきわめて重要となるため、定期的な災害訓練や研修を積み重ね、いつ起こるか分からない災害に素早く対応できるよう準備しています。

これまで中越沖地震や東日本大震災、北海道胆振東部地震の際に被災地に出動し、活動しました

近年、各地で人命や生活を脅かす災害が頻繁に発生しています。「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉は今では通用しなくなり、いつ自分が被災するかわかりません。災害に対する意識を高め、身の回りの準備をしっかり整え、早めの行動で被害を最小限に抑えられるように日頃からひとりひとりが気を付けましょう！

中央病院からのお知らせ

第２０回糖尿病フェア

☑申込不要
☑参加費無料
☑どなたでも参加いただけます

糖尿病の予防･治療･療養について皆様に楽しんで学んで頂くために、11月14日の世界糖尿病デーに合わせて、今年も糖尿病フェアを企画しました。今回は新しい試みとして、実技の運動前と後にそれぞれ血糖値を測ってもらい、血糖値の変化を見てもらう予定です。皆さんのお越しをお待ちしております！

【場所】上越市市民プラザ　ホールA.B.C

【日時】令和元年11月24日(日)

14:00～16:30(13:30開場)

【講演】「糖尿病の隠れたキケン」

中央病院　糖尿病専門医　松永　佐澄志

【実技】「運動をして心も体も健やかに」

スポーツクラブJOYFIT　髙沢　泰徳先生

【お問い合わせ先】地域連携センター　Tel:025-522-7711

主催：糖尿病教育部会

昨年の様子

当日は動きやすい服装、履物で、飲み物と汗拭きタオルをご準備のうえお越しください。

クリスマスコンサート

毎年開催している、クリスマスコンサートを今年も開催します！

今年は、高田北城高校吹奏楽部のみなさんが出演予定となっております。当日、みなさまに楽しんでいただけるよう、コンサートの準備を進めているところです。お楽しみに☆

開催日…令和元年12月14日(土)14時～

場所…中央病院待合ホール(1階)

(収容人員約100名)

敷地内は禁煙です

当院では敷地内禁煙としております。これは、健康増進法第25条により非喫煙者の健康を守るため、病院や学校などの施設管理者には受動喫煙を防止する義務があるからです。

病棟移動をお願いすることがあります

当院では、病室の空き状況や患者さんの状態に応じて、入院中に病棟を移動していただく場合がございます。